

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 22 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	放課後児童ヘルパーの設置
-----	--------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくため、地域と連携を図り、地域の人材を「放課後ヘルパー」として登録し、活動を支援していきます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 放課後児童クラブ

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	活動内容調査	モデル事業の実施	事業実施	事業実施	
	これまでの進捗状況・今後の予定	活動事例集作成	同上	同上	同上	同上	
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	ヘルパー活用クラブの割合		計画				年度 平成26年度
	放課後児童クラブの多くは、地域の方々が発行に参画されており、地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくために、「放課後児童ヘルパー」として登録し、活動を支援していきます。		実績				内容 50%
			達成度		%	%	
			計画				年度
			実績				内容
【コスト】			事業費		千円	千円	
			うち一般財源		千円	千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	各放課後児童クラブの夏休みの活動内容を調査し、活動事例集を作成しました。また、活動事例集を放課後児童クラブのほか小学校、市民センターなど地域での子育て支援に関わる施設や関係機関に配布するとともに、「地域で支える子ども・子育て研修」を実施し、放課後児童クラブの指導員・運営委員に加え、関係機関にも参加していただき、放課後児童クラブへの理解及び今後の活動に対する協力、支援を呼びかけました。
--------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくために、地域の人材を「放課後児童ヘルパー」として登録し、活動を支援することは、放課後児童クラブの質の向上にあたって非常に有効であるといえます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3 放課後児童クラブの多くは、地域の方々が発行に参画されており、こうした地域の人材を「放課後児童ヘルパー」として登録していきますので、経済性・効率性が高いといえます
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	3 従来の「安全な子どもの居場所づくり」との視点だけでなく、地域との連携(地域の人材をヘルパーとして登録)を通じ、放課後児童クラブの活動内容の充実を図ることは、地域社会全体の子育て力を高め、子どもが健やかに成長するために、重要な取組であり、適時性は高いといえます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	3 地域の方々の協力や支援や活動内容については、放課後児童クラブによってその取り組みに差があり、放課後児童ヘルパーの仕組みづくりなど、市の関与の必要性は高いといえます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後、モデル事業等を通じて、具体的な仕組みづくりを進めます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	活動事例集などをもとに、夏休みの活動を中心に、放課後児童ヘルパー活動モデル事業を実施します。また、青少年課の「青年リーダー(ボランティア)との連携事業」など他機関の事業との連携を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 22 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	夏の教室(地域版)の実施
-----	--------------

【目的の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	スポーツ、文化等の指導員の派遣や放課後児童ヘルパー等の地域力の活用などにより、夏季休業日中に小学校で一週間程度実施されている「夏の教室」の地域版を放課後児童クラブで実施し、生活体験や自然体験、スポーツや伝統文化などさまざまな体験をさせるとともに、学習習慣を養います。 また、学校との連携により、校内で育てている動植物の世話や観察などを行います。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	放課後児童クラブ

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	活動内容調査	モデル事業の実施	事業実施	事業実施		事業実施
	これまでの進捗状況・今後の予定	活動事例集作成	同上	同上	同上	同上		
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）	実施クラブの割合			計画		年度	平成26年度
		放課後児童ヘルパー等の地域力の活用などにより、夏季休業日中の放課後児童クラブの活動内容の充実を図ります。			実績		内容	50%
					達成度	%		
					計画		年度	
					実績			
					達成度	%	%	
コスト					事業費	2,281 千円	2,585 千円	
				うち一般財源	2,281 千円	2,585 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	夏休み期間中に、JICA九州による国際協力出前講座を25クラブで実施しました。また、1クラブで校区社会福祉協議会と連携して、地域の高齢者を見守るウェルクラブ活動を実施しました。さらに、夏休みの活動を中心に市内放課後児童クラブの活動事例集を作成し、放課後児童クラブのほか小学校、市民センターなど地域での子育て支援に関わる施設や関係機関に配布するとともに、協力や支援を呼びかけました。
--------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	児童が長時間活動する夏休み期間中に、「放課後児童クラブ等活動支援事業」や「放課後児童ヘルパー」を活用するなどして、夏の教室を実施することは、放課後児童クラブの質の向上にあたって非常に有効であるといえます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	3	現在でも、特に夏休み期間中は、各放課後児童クラブで様々な活動が行われており他放課後児童クラブの活動を参考にしたり、放課後児童ヘルパー等地域の人材を活用することから、経済性・効率性が高いといえます
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	特に夏休み期間中の活動内容の充実に対するニーズは高く、適時性は高いといえます。	
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	夏休みの活動内容については、放課後児童クラブによってその取り組みに差があり、市内の各放課後児童クラブ活動内容の情報提供や各種事業の紹介など、市の関与の必要性は高いといえます。	
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後、夏休みの活動を中心に、各放課後児童クラブの参考となるモデル事業を実施し、具体的に事業を推進していきます。	

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	引き続き、「JICA九州による国際協力出前講座」や「放課後児童クラブ等活動支援事業」を実施するとともに、夏休みの活動を中心としたモデル事業を実施します。また、青少年課による「青年リーダー(ボランティア)との連携事業」など、他機関の事業とも連携します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 22 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	放課後ジュニアリーダープログラムの展開
-----	---------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	高学年児童(5~6年生)をジュニアリーダーとし、指導員、放課後児童ヘルパーとともに低学年児童等のお世話をすることで、高学年児童の思いやりの心や自立心を促していきます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 放課後児童クラブ

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	活動内容調査				
	これまでの進捗状況・今後の予定	活動事例集作成					
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	実施クラブの割合				計画		年度
	高学年児童の受け入れに伴い、異学年間の交流を活かした活動内容の充実を図ります。				実績		平成26年度
					達成度	%	%
					計画		年度
					実績		内容
コスト					事業費	千円	千円
					うち一般財源	千円	千円

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	各放課後児童クラブの夏休みの活動事例を調査し、高学年児童によるジュニアリーダーの役割を盛り込んだ活動事例集を作成しました。クラブの活動において高学年児童の活用に理解、支援を呼びかけました(事例集は、クラブのほか小学校、市民センターなど地域での子育て支援に関わる施設や関係機関に配布)。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	放課後児童クラブの全児童化に伴い、放課後児童クラブで1年生から6年生まで年齢の異なる児童が共に過ごしながら、高学年児童がリーダーとして、低学年児童のお世話をするなど、クラブの活動に関わることで、思いやりの心や自立心が育まれていきます。放課後児童クラブの活動内容の充実に伴い、有効性が高まるといえます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3	「放課後児童ヘルパーの設置事業」や「夏の教室(地域版)の実施事業」などによる放課後児童クラブの活動内容の充実とともに高学年児童の活躍の場(役割)が広がり、経済性・効率性が高いといえます
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	3	「放課後児童ヘルパーの設置事業」や「夏の教室(地域版)の実施事業」などによるクラブの活動内容の充実とともに、高学年児童の活躍の場(役割)が広がり、適時性は高いといえます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		3	各クラブによってその取り組みに差があり、かつ、「夏の教室(地域版)」などとともに取り組んでいくことから、市の関与の必要性は高いといえます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	「放課後児童ヘルパーの設置事業」や「夏の教室(地域版)の実施事業」の充実とともに、ジュニアリーダーの育成が図られるため、これらの事業と併せて事業を進めます。	

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	「放課後児童ヘルパーの設置事業」や「夏の教室(地域版)」のモデル事業の中で、活用の手法を検討していく。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------